

東芝メディカルシステムズ
高い機動性と画質性能を両立させた
超音波診断装置の新製品「Viamo」発売
(2009/4/15)

東芝メディカルシステムズ(株)は新製品「Viamo™」(ビアモ)を商品化し、2009年4月より営業活動を開始する。

超音波診断装置は、検査時の患者さんへの負担が他の画像診断装置に比べて少なく、またリアルタイムに画像を観察できることから、腹部一般から全身までの幅広い臨床領域で使われている。

「Viamo™」は、プレミアムクラスの基本画質性能を小型のボディに搭載し手術室から処置室や病棟など幅広い診療シーンで使用可能な超音波診断装置
＜主な特長＞

● プレミアムクラスの基本画質性能

同社最上位機種のアプリオ™ XGと同等のプラットフォームを搭載。アプリオ™シリーズと同じ技術を搭載したプローブやPulse Subtraction、THI*1の採用でプレミアムクラスの基本高画質性能を実現。処置室や病棟でも、検査室と同様な高画質で検査することができる。

● 高い機動性

スリムなポールタイプのカートシステムで病院内を軽快に移動、15秒以内の立ち上がり Press release時間(レジューム時)ですばやく検査を開始することができる。ワンタッチでカートから取り外し可能な本体は内蔵バッテリーで稼動、HDDに画像を記録し、USBメモリで出力することもできる。

● 直感的でフレキシブルな操作性

15インチの液晶モニターはタッチパネル式で画面に表示されたボタンを直接触れることで、より直感的な操作感を実現。東芝独自のパームコントローラを中心とする操作パネルは使いやすくボタンが配置され、さらに各ボタンの機能を自由にプログラム可能。

*1 Pulse Subtraction™ THI: 複数回の超音波送信と受信信号処理技術により、ハーモニック成分のみを取り出して精細な画像を構成する技術



東芝
(Viamo)